



Fore Please / 世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えするこの連載。今回は中南米のゴルフのお話です。

中南米でも楽しめる 世界のゴルフ事情

今年には新年から、リオ五輪で復活するゴルフ競技の話題がニュースを賑わせていますが、日本に比べると、あまり中南米のゴルフ事情は聞こえてきません。2009年にマスタートーズで優勝したアンヘル・カブレラの名前を聞いて初めて、「アルゼンチンでもゴルフする人いるんだ?」と思われる方も多いかもしれません。

アメリカの友人たちは、真冬には必ず、南半球の夏ゴルフを楽しんでいます。例えば、アルゼンチンはちょうど北カリフォルニアと同じような気候ですから、ワインを味わったり、プレーの合間にフライフィッシングをするなど、他の地域ではできないことを楽しめるんですね。

歴史的には、英国、そしてアメリカの資本進出とともに、中南米でもゴルフ場建設が盛んになりました。たとえばアルゼンチンには、世界のトップ100にランクされるコースもあるほどです。海外の貿易商が、神戸に日本のゴルフ場の発祥地(神戸ゴルフ倶楽部)を作ったのと同じですね。

中南米で印象的だったゴルフコースは、「カラカスカントリークラブ」です。ベネズエラにあるコースで、ヤシの木の中で、野鳥の声を聞きなが

らの贅沢なプレーを楽しめます。1950年代から「ベネズエラオープン」が開催されている名門コースです。

「資本主義のスポーツ」と差別されたゴルフ

しかし、2009年に共産主義のチャベス大統領が選出され、ベネズエラのゴルフが過去最大の危機に瀕したのは、あまりご存知ではないかと思えます。資本主義者のスポーツとしてゴルフは差別され、国内にはまたスラムがあるのだから一部の富裕層のためのゴルフ場はクローズする、という政策がとられました。2010年から13年まで、「ベネズエラオープン」も開催されませんでした。

ゴルフはアメリカという考えがあったのかもしれませんが、当時友好関係にあった中国は、約30万人のゴルフ人口を抱えて、300近くのコースを作っていました。また、チャベス大統領が手本としていたキューバのカストロ氏も大のゴルフファンで、自らラウンドを楽しんでいました。それだけでなく、キューバでは当時から、観光客だけでなく地元のゴルフファアのため、多くのゴルフ場が作られていました。

アメリカはこの宇宙に存在する最も邪悪な存在」とまで

Vol.27

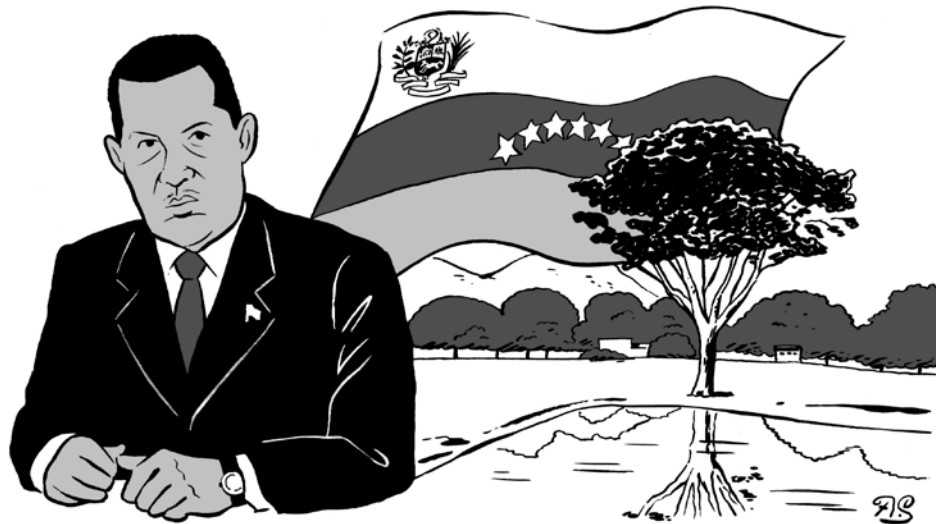
ベネズエラの
ゴルフ

政権に左右される 中南米のゴルフ事情

アメリカを毛嫌いしていたチャベス大統領ですが、実は大のベ이스ボール好きだったようです。アメリカを代表する野球はよくて、ゴルフはダメというのはいかがなものかと……。

いずれにせよ、チャベス政権の間に、民営のゴルフ場はクローズしましたが、海外から来た石油探掘の技術者などが中心となり作ったプライベートゴルフクラブは、なんとか運営を続けました。大統領が亡くなり政権が交代してからはゴルフ産業も復活を遂げ、現在では海外のゴルフファアだけでなく、地元プレーヤーも楽しんでいきます。

最近、中国では共産党員にゴルフ禁止令が出たり、多くのゴルフ場が閉鎖されるなど話題になっています。ゴルフが政治的に使われるのは残念ですが、プレーができるのは平和の証拠、とかみしめながら、次回、ティーアップしたいですね。



ゴルフビジネスのプロフェッショナル 神野方仁(じんの・みちひと)

1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary/www.tpi-j.co.jp/ceo_blog/



イラスト/ソリマチアキラ